

(4) 授業実践

題材 「曲のよさを考えよう」

教材 「威風堂々 第 1 番」(エルガー 作曲) (鑑賞)

題材の目標

楽譜で曲の特徴の根拠を見付けたり気付いたりする活動を通して、聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲のよさについて考えをもつ。

本題材で位置付ける〔共通事項〕

(ア) 音楽を特徴付けている要素…リズム, 旋律, 強弱, 音の重なり

ア 1 時目

○目標

曲想と音楽の構造との関わりを考えながら聴く。

○授業の展開 ※□□□□は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
導入	<p>1 旋律 A, 旋律 B, それぞれ一部のキーボード演奏を聴く。</p> <p>T: どちらも同じ曲です。 C: Bは聴いたことがあるな。</p> <p>2 主旋律を歌って、主旋律の特徴をおさえる。</p> <p>C: Aは難しい。 T: どうして難しかった? C: リズムが取りづらいです。 T: タッタッタララララララ♪ (手拍子でリズム打ちしながら) ちょっと音の長さが短い感じがするね。他には? C: 音を取りづらいです。 T: タラララララララ♪ (手を上下しながら) 音の高さがジグザグしていて難しいね。</p> <p>めあて: 曲をきいて、いろいろな特ちょうを見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律 A は激しい動きの部分, 旋律 B はゆったりした部分とし, どちらも同じ曲であることを知らせることで, 特徴を比較する学習につなぐようにした。</li> <li>・歌ったり体を動かしたりすることで, 旋律やリズムの特徴に気付くことを促した。</li> <li>・歌うことに苦手意識をもたないように, 旋律 B, 旋律 A という順序で歌うようにした。</li> <li>・歌いやすいように, 旋律 B は「ラララ」, 旋律 A は「タッタッタララララララ」と, ゆっくりしたテンポで歌うようにした。</li> <li>・歌うときは, 音の高さに合わせて手を上下に動かさせたり, リズム打ちをさせたり, 歌う人を変えたりして, 遊び感覚で繰返し歌うようにした。</li> </ul>
展開	<p>3 オーケストラによる演奏を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような感じがするか考えながら聴くように声を掛けた。</li> <li>・ワークシートには, 曲想を書くことができるように, 手掛かりになる言葉のリストを載せた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">↓ (次頁)</p>

※ 次のことばを参考にしてもいいです。

分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ
楽しい	楽しい	はげしい	はげしい	力強い	力強い	落ち着いた	落ち着いた	その他	美しい
	うれしい		はく力がある		どうどうとした		なごむ		おどろたくなる
	うきうきした		もり上がる		勇ましい		おだやかな		軽かいな
	明るい		はなやかな		そう大な		のんびりした		なめらかな
	元気な		パワフルな		重々しい		あたたかい		
	スカッとする		情熱的な		はずむような		のどかな		
	生き生きとした		にぎやかな		はつらつとした		どっしりした		

4 感じたことを発表する。

- ・ワークシートに書いたことを4人組で交流させ、友達の考えを共有したり、共感したりできるようにした。
- ・納得した友達の考えは、ワークシートに付け加えてよいことを伝えた。
- ・感じたことの共通点を考えさせた後、3つ（旋律A、旋律B、全体）のどれに当たるか尋ねることで、曲のどの部分から感じたことか確かめられるようにした。
- ・題名を伝えることで、感じ取ったことと題名のイメージにつながりがあることを確認できるようにした。
- ・ワークシートには、音楽を形づくっている要素に着目できるように、**音楽を形づくっている要素の具体**を載せた。

5 なぜそのように感じたのか理由を考える。

どんな感じがしますか？

自分 サークルでつかれるのが、はく力があつて、もり上がる感じと中からたさしくな、てその後、あつて、いもみないな感じ

友達  
① かんかしているような感じ  
② 像があるいっているような感じ

なぜ、そう感じたのか、わけを書きましょう。

自分 リズムがはげしかった。

友達

※ わけを書くときに次のことばを使ってみましょう。  
音の動き、リズム、強弱、音色

T：どこの部分について書きましたか？  
 C：Aの部分で、「迫力がある」についてです。  
 T：「迫力がある」と感じた理由を教えてください。  
 C：リズムが激しいからです。  
 T：もう少し詳しく教えてください。  
 C：リズムが強く、強弱が強いからです。  
 T：Aの部分を書いて確かめてみましょう。  
 C：♪（Aを歌う）

- ・曲のどの部分について説明しているのかが分かるように、3つ（旋律A、旋律B、全体）のどれについての理由かを尋ねた。
- ・児童による理由の説明が伝わりにくいときは、詳しく尋ねた。
- ・旋律を歌わせることで、曲の特徴を確かめられるようにした。
- ・視覚的につながりが分かるように、板書した感じたこととその理由を線をつないだ。

	<p>T：短い音がたくさん続くリズムだから、激しいリズムと書いたのかな。(線でつなぎながら) 迫力がある感じにもつながるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を形づくっている要素の着目につながるように、音楽を形づくっている要素ごとに理由を整理して板書した。</li> </ul>
まとめ	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲から感じたことには、リズムや強弱などが関係していることを確認する。</li> </ul>

## イ 2時目

### ○目標

旋律A、旋律B、それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え、理解する。

### ○授業の展開

※ [ ] は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どんな感じがしますか？</p> <p>なぜ、そう感じたのか、わけを書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はく力</li> <li>はげしい</li> <li>元気</li> <li>もり上がる</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの音が短く切れているリズム</li> <li>強い</li> <li>力強い音色</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>力強い</li> <li>ゆったり</li> <li>なめらか</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>音の動きがなめらか</li> <li>1つ1つの音が長いリズム</li> <li>弱い</li> </ul> </div> </div> </div> <p style="text-align: center;">めあて：AとBの特ちょうを確かめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の動きを入れて曲を聴き、1時目の学習を振り返った。</li> <li>1時目の学習について、A、Bごとにまとめた揭示物を見せ、音楽を形づくっている要素のどれに当たるかを確認させることで、楽譜で確かめる音楽を形づくっている要素に気付くようにした。</li> <li>楽譜で確かめる音楽を形づくっている要素が視覚的に分かるように、揭示物に音楽を形づくっている要素を書き込んだ。</li> </ul>
	<p>2 確かめる方法を考える。</p> <p>T：本当にそうなっているのかな。確かめられる方法はない？</p> <p>C：音符。シャープ。速度記号。</p> <p>T：そういうのが全部分かればいいね。音符とか記号がいっぱいあるものは、ないかな。</p> <p>C：楽譜。</p> <p>T：楽譜があれば確かめられそうですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時目に聴き取ったことや感じ取ったこと、その関わりについて確かめる方法として、楽譜を見ることに気付かせるようにした。</li> </ul>
展開	<p>3 曲想と音楽の構造との関わりを楽譜で確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜の見方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大楽譜をみんなで見て気付きを出し合わせることで、記号や音符の密度が手掛かりになることに気付くようにした。</li> </ul>

T : (拡大楽譜を見せて) どんな楽譜だろうね。  
 C : 上がAで, 下がBです。  
 C : 全然違う。音符が多い。音符が全然違う。音符の数が違う。  
 T : 音符の数を見たらいいね。他に何か分かるかな。  
 C : スラー。  
 T : 記号も手掛かりになりそうだね。  
 C : 伸ばす記号もある。  
 T : 音符の数や記号から, 楽譜で感じた理由を確かめられそうですね。

- ・楽譜の旋律を指しながら歌わせることで, リズムや旋律を確かめられるようにした。
- ・フォルテシモなどの記号の意味を確認することで, 曲の特徴を見付ける手掛かりにできるようにした。

・楽譜で確かめる。

1人で



- ・「楽譜がこうなっているからこんな感じがする」という記述の仕方を伝えることで, 考え方のヒントにできるようにした。
- ・ワークシートの楽譜の中から, 曲の特徴が分かるところを囲んだり線を引いたりするように伝えることで, 視覚的に特徴が分かるようにした。

楽譜の比較と感想表

感じ	わけ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・はく力</li> <li>・はげしい</li> <li>・元気</li> <li>・もり上がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つの音が短く切れているリズム</li> <li>・強い</li> <li>・力強い音色</li> </ul>
感じ	わけ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・力強い</li> <li>・ゆったり</li> <li>・なめらか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の動きがめろめろ</li> <li>・1つ1つの音が長いリズム</li> <li>・弱い</li> </ul>

1時目の学習で出た考えについて、  
**旋律A, 旋律Bごとにまとめた表**


自分Aは多分をつなげるとたくさん凸凹があって重なりがはげしくなる。  
 Bは音をつなげると凸凹が少なくめろめろな感じ。  
 友達と交流して Aはフォルテシモスタッカート  
 Bはスラーセタイがあるから  
 映像を見て 先生の人がAパートの音でもっと強くうっていたBパートにならなくても落ちついて!!  
 差がとれてはげしくした。

グループ交流で



- ・グループ交流で, 納得した友達の考えは, ワークシートに付け加えてよいことを伝えた。

友達と交流して Aはフォルテシモスタッカート  
 Bはスラーセタイがあるから

	<p>全体交流で</p>  <p>Aは、スタッカートがあるから、迫力や激しい感じがすると思います。</p> <p>Bは、タイやスラーがあるから、滑らかな感じがすると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体交流で、児童の説明が伝わらないときは、児童に詳しい説明を求めたり、他の児童に尋ねたりした。また、歌ったり体を動かしたりして特徴を確かめさせるようにした。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時は、曲全体に広げて、曲が愛されている理由を考えていくことを伝えた。</li> </ul>

ウ 3時目

○目標

曲全体の曲想と音楽の構造との関わりから、曲のよさを考える。

○授業の展開

※ □□□ は、教師 (T)、児童 (C) のやり取りを示す。ゴシック体は、本研究で取り入れる手立てを示す。

過程	学習活動	教師の働き掛け
<p>導入</p>	<p>1 「威風堂々 第1番」が愛されていることについて知る。</p> <p>めあて：曲のよさを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリスでは第2の国歌として愛されていることを伝え、曲のよさを考えるということにつなげた。</li> </ul>
<p>展開</p>	<p>2 指揮をしながら曲全体を聴く。</p> <p>3 曲全体がどのように変化したかについて考える。</p> <p>T：指揮の振り方がだんだん大きくなっていましたね。全体的に何が変化していますか？</p> <p>C：強さ</p> <p>T：強さがどのように変化していますか？</p> <p>C：最初は優しい感じの強さだったけど、だんだん強くなった。</p> <p>T：そうですね。Bを例に考えると、Bは繰り返されていたけど、初めのBと後のBでは、強さが違ってましたね。では、どうして、強さが違うように感じたのでしょうか？楽譜で確かめてみようか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強弱の特徴に気付くことができるように、指揮をさせた。</li> <li>音楽を形づくっている要素に気付くことができるように、強弱に着目する発問をした。</li> <li>Bは同じ旋律を繰り返しているが、だんだん強くなっていることを確認した。</li> </ul>

4 楽譜で確かめる。



1人で



- 1回目と2回目のBを並べた総譜（フルスコア）を提示し、配付した。
- 楽器の分類、名前について**楽器のイラスト**を示しながら伝え、縦に音の重なり、横に音の流れが表されていることが分かるようにした。
- 演奏と楽譜を照応できるように、**楽譜の部分**を聴かせた。
- 2時目の学習を振り返り、本時でも楽譜を見るときに、記号や音の密度が手掛かりになるかもしれないことに気付かせるようにした。
- 楽譜で1回目と2回目を比較して、強弱の違いが分かるところに印を付けるように伝えることで、視覚的に特徴が分かるようにした。

『威风堂々』 名前( )

せんりつB(1回目)

せんりつB(2回目)

【めあて】曲のよさを考えよう

全体交流で

- T : 2回目が強く聴こえた理由は楽譜から分かりましたか？
- C : 1回目は休みが多いです。2回目はオルガンが増えています。
- T : 記号はどうですか？
- C : 2回目はフォルテッシモやアクセントなどの記号があります。
- C : 2回目は3つ同時に演奏する和音があります。

- **全体交流**で、だんだん強くなったように感じたのは、音を強く出していることや、演奏する楽器の数が増えていることによることを確認した。
- 和音の部分をキーボードで演奏することで、和音は音楽に厚みをもたせる働きがあることを確認した。

	<p>5 作曲者の意図を考える。</p> <p>T：エルガーは、どうして同じ旋律なのに音の重なりや強弱を変えたのでしょうか？</p> <p>C：なぜかなあ。</p> <p>T：指揮の振り方もだんだん大きくなっていましたね。振ってみてどうでしたか？</p> <p>C：だんだん気持ちが盛り上がりました。</p> <p>T：指揮者や演奏者も盛り上がりますが、聴いている人はどうですか？（歌いながら指揮をする）</p> <p>C：聴いている人を元気にしていると思います。</p> <p>6 オーケストラの演奏を鑑賞する。</p> <p>7 曲のよさについて書く。</p> <p>(児童のワークシートの記述より)</p> <p>みんなを楽しませるよさがあります。初めは、リズムが激しい感じがして、後で、おだやかなリズムになります。リズムの変化が楽しいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだん強くした理由を考えさせることで、強弱や音の重なりによって、聴き手の感情が盛り上がることに気付くようにした。</li> <li>・オーケストラの演奏の動画から、音楽を形づくっている要素によって、たくさんの人の感情を動かすことを伝えた。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>8 題材のまとめをし、学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時目のワークシートや、題材全体の学習を振り返ることを通して、曲想と音楽の構造との関わりについて、根拠をもって理解できたことを自覚できるようにした。</li> </ul>